



抑^{おさ}なりげの糸宮^{いとみや}い宝永^{ほうえい}雨^{あめ}の^のぬ^ぬあ^あ
 の^の甲^かも^も文政^{ぶんせい}の庚寅^{こういん}六十^{ろくじゅう}年^{ねん}哉^や
 いやあは^{あは}光陰^{こういん}み^みも^もや^やあ^あと^と
 の^のう^うち^ち的^{てき}の^の吹矢^{ふきや}の^のど^どく^く阿波^{あわ}も^も出^で
 ち^ちも^も純^{じゆん}列^{れつ}が^がぞ^ぞり^り氷^{こほり}晶^{さう}埃^{あひ}お^お在^{ざい}い^いの^の
 大坂^{おおいさか}中^{なかつ}が^が一^{いち}度^ども^も出^でる^る町^{まち}と^とう^うハ^ハ能^{のう}く^くが^が



出^でる道^{みち}中^{ちゆう}へ人^{ひと}が出^いる伏^{ふし}見^み穴^{あな}あ
 登^{のぼ}る舟^{ふね}も入^いる軒^{のき}屋^やへ入^いる出^でる出^でる
 ろれ出^でる入^いる助^{すけ}平^{へい}やう平^{へい}我^{われ}が
 あれこ^{これ}こ^{これ}わ^わう^うう^うあ^あお^おせ^せま^まる^る類^{るい}
 見^み合^あひもじ^じう^うふ^ふ神^{かみ}のお^おの^のげ^げを^をお^お
 を^を梓^すも^もま^まら^らか^か——ま^まら^らみ^み

初^{はつ}日^{にち}う^う吹^ふ矢^やのあ^あう^うを^を無^む炭^{たん}も^もの^のハ
 浪^{なみ}女^め三^{さん}七^{しち}高^{こう}中^{ちゆう}に^に回^{くわい}わ^わ大^{だい}坂^{さか}も^も
 お^おい^いせ^せら^らま^まで^で南^{なん}里^りも^もう^うち^ちる^る

唐寅の書



かうげ
六家撰

子里亭虎道

芸のゆきやまむ

りもあき波あり

あつてふれち

くらまぬ

富良野一丸磨

あれえまゝおのが子もちの

せつれつようべ

あーおれもせだ

東

東里亭桂中

つれやあぬぬや先ふとどれち

我身ひとくはしやみ道まで



哲斎信勝画

万般亭桂中

あ人もあき家

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち

あつてふれち





大寺御影衆

いせとら

明和八年
辛卯夏月

怪哉安二傍尔抗歳六十更不傷腰
勢可破延其色黒着者空然東云趨

左

萬昌堂主人戯稿



鯉市のけち

○中村梅助

角のまゝ居の彦板のまゝ板をぬがふありあられ
ととねいなり表方中役者流をわらわ猿
けちとちいめ皆く大喧ひ何でも芝居とは
おれ中ねいれきふて古市のお屋でこんど
のあり振舞をててととねいれきふて芝居
まんじやきり取り流をててととねいれきふて
おれおれとひとくちとありせんとおれ
ともまゝ中村えねがあら同の一文をて合

中村元躬



哲
信勝画

中村梅師



ねえとまもスッポをききあがりてのぬけきり
 い中村末節おかりぬきとなのこゝろとて
 も泣き入り内々たのこ力保のめも
 ありはちりめんの頃かむりで
 中々中々遊人とのぐれて夜を
 くりゆくま川の口こもまも
 ちやて衣帯を改ちりて
 神あふお給てき君さんやう
 法あふお給てき君さんやう
 神あふお給てき君さんやう

中島女ひとのたまふ
あゝまゝとふまはり
ませぬ

○白猿

長持の通市川白猿ちくせん云々分限者ありて
何事なんじも三昧さんまいと二株ふたぐさの四角をこのまゝ大金
をやて家屋いえやをぬきともぬはよりはまでを
一庭敷ふに花ばかり中々なかなが別れのうらみよ
ろこび家の合字と二篇一のまんがことぞ。
あてもなくあるべし。ふりふり大蛇おほへびのひげがふ
たりとあ合せ、林はやのうらみや角やうてみねが
白猿しろいづつの白毛しろけ。花すも仙徒せんたくの四角ハやえん入

て内糸のよきいんふ云ふにつくふが市川
流のこ糸云々や角に面付合ひ衣類の被
も糸形をして候ふや（号名とて角くと咄び
けふおがきありがあることを幸ひ白猿もしせ
の芝居で常面するといふお切まきまぬ白猿
かりとく〜と藤のあ〜と今ふあり〜との
支度あれ大さるあ〜ら〜と目で括さ〜とん
何より嬉し〜とあ〜と見れば二市橋子のさ
へおま合ぬ〜細き〜附の衣類も皆〜と
トまのさういふはさまでや角に流〜と二市

並んで歩け〜衣類もや角あるはあ〜とあれは
あ〜とあ〜と二市の被もさ〜とあ〜と
や〜と角をさ〜とあれは〜とあ〜と
因それ〜とあ〜と石臼なるのであ
葉は〜とあ〜と上ればや角もあらわ〜と
さ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜と

○施舟

南邊の若くはあ合あんと皆の流けのいせ
ま〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜と
い〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ〜と

不^ふと^とし^しに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うか^かつ^つて^て勢^{せい}を^をい^いふ^ふや
ある。名^なを^をや^や東^{とう}吉^{きち}い^いの^の時^{とき}の^のま^まし^しに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
う^う何^{なに}も^もく^くん^んに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
ト^トや^やま^まい^いも^も可^かい^いか^かの^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
り^りて^てあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
駕^かを^をこ^こ可^かい^いか^かの^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
け^け子^しを^をあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
と^とり^りの^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
私^{わたし}も^もい^いふ^ふま^まい^いの^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
三^{さん}丁^{てい}のか^かご^ごも^も二^に人^{にん}に^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う

ま^まえ^え一^{いち}日^{にち}の^の内^{うち}に^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
不^ふ可^かく^くあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
か^かご^ごで^で人^{にん}数^{すう}が^があ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
又^{また}お^お後^ごに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
く^くげ^げで^であ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
と^とつ^つけ^け大^{だい}勢^{せい}の^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
施^せり^りあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
あ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
と^とま^まり^り上^{じやう}の^のあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う
地^ち車^{しや}と^とつ^つけ^けあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^うに^にあ^あま^まぬ^ぬう^う



かゝる草く施乃糸^つまて^り野と^あ休め^るかよ^う舟
のめく^るものせる^る糸^はく^る一^つ波^はの^う糸^は式^{しき}百^{ひゃく}年^{ねん}り
糸^{いと}合^あひ^ひ縄^{なわ}と^とつ^つけ^けと^とん^んド^ドりの^のや^やふ^ふく^くう^うわ^わり
す^すね^ねば^ば何^{なん}の^の昔^{むかし}も^もあ^あふ^ふ堀^{ほり}筋^{すぢ}を^をあ^あき^き寺^{てら}橋^{はし}ま^まて^て尾^お
浪^{なみ}坂^{さか}へ^へる^るも^もと^と何^{なん}あ^あより^{より}で^であ^あが^が登^{のぼ}り^りぬ^ぬや^やち^ちふ^ふ免^{めん}
き^きし^して^て彼^{かれ}は^はさ^さる^るも^も西^{さい}風^{ふう}が^があ^あこ^こ也^やサ^サア^アは^は風^{ふう}で^で
帆^ふを^をま^まふ^ふと^とよ^よち^ちど^ども^もあ^あれ^れ帆^ふ柱^{はしら}を^をま^まや^やり^りあ^あわ^わ
む^むろ^ろの^の帆^ふを^をあ^あげ^げと^と十^{じゅう}分^{ぶん}ふ^ふ風^{ふう}を^をま^まと^とそ^そ人^{ひと}の^のか^かも^も
何^{なん}も^もの^のふ^ふに^にふ^ふび^びよく^{よく}坂^{さか}を^を登^{のぼ}り^りま^まで^でく^く肉^{にく}ふ^ふ玉^{たま}を^を
二^{ふた}朝^{あさ}糸^{いと}を^をま^まで^でふ^ふが^が息^{いき}と^とい^いふ^ふや^やう^うづ^づと^とい^いふ^ふや^やこ^この

及者之知
此子也のりど

○ 羅新如

むうへあひとくをむ人子供也るあどいたまきさ
とす我とや飯ひきと我この子供へ寺屋くさ
紙あもとま母もむはさこのまのぶちいもて
あぬうちふとんもとま年あーこのとあ
あーまことふ猫も板子も年あぬ考いらるとい
とやがはしあんた新地のんせわおとけ屋敷のちん
なほ新地が一日足あんた更報まう上あまのさ
たふあてさつぎさうんづんのちんがあくと

の事務人三月八月迄停務を命ずるの數に
百萬の金といふこととやがて十八年の夏ふ人
このり信を増すのう大造が事務人て却然の万
金丹を百人ぞ丸薬をばふ毎く百金
何ぞこれのうの事更ふもさく一十年も
このゆへに金度のあつても明の時に又
く三増倍の事いであつてあつて二百人の
をへて夜をあらふた某方を也信するふ
の介万金丹がこれのゆへに人たふ死してさう
考へるにこれいふ定めて屋中筋あつて給うさ

出店があらもあれぬと目付の人を也一掃田松
坂の町より寄くをんねはは給うささう
一軒もあつね坂の入口く悪化子と買人
徳本の集まりある一ふくも来るや一はさ
金丹の心はさうであるといふ者の神をひいて
あつて方万金丹を出賣たうすのでふりも
國々國々今度のぬけ事いふ万金丹でいふ
ぐん一とわいふ國々夫いふさうさうけで
あつて國々何れもあつてさうさう皆枚持や

〇二一

みりみあへんてつて終ひせんとも二日ひまうの
城をぢうそ毎日目どくちう水列にけしうを
とめて女の親づねをだてて日方也んがめこれ
くそちハ一昨日の来るがもて仔細へき
ぬといふてきでいふハく四推量のそや
也所のまへにまゐりていふていふて中施
きあれがけりてきりてきりてきりてきりて
わりの施れがけりてきりてきりてきりて
いせきりてきりてきりてきりてきりて
そあやませぬ施それきりてきりてきりて

あせきりふてきりて

○宿屋

式宿屋の後部ちのれあうて氣まの乃志きり
ひの衣敷きてゆえのよきそきりてきりて
とてきりてきりてきりてきりてきりて
けしき宿屋に合まひあへんてきりてきりて
きりてきりてきりてきりてきりてきりて
またきりてきりてきりてきりてきりて
あきりてきりてきりてきりてきりてきりて
ぬてきりてきりてきりてきりてきりて

上へおしりくもよあらせとけの介せと
 之へ客もつてをけけはふ飯のちくちく
 甘くく一せんをふふふそちりくふま
 甘くとあつてええれはゆふませなだこへあひ
 綾布ちとてをけけはふ飯のちくちく
 乃志いそせええええええええええ
 そのくけけけけけけけけけけけけ
 徳ありとけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけけけ
 今同も大坂と志ありたるけけけけけ

つぎ立ちたるをゆり、宿賃百文又ツで立めし
まゐりつめしうては焼死せよと付まつたに
それはいふもせよとあるちとちめんれど皆いせ
信ふなませう分くそのらりの日一夜の内におこ
しも大因史に一のひと皆さるんとせき
まゝよくなり、夜食風にあどもすし宿する今
宵はあのおよりで深山なる金籠の中づれられ
定めてよいはず也ねぐるをも例のやうせの
小おころしてサア、今朝ハ起てそれまでモウ夜の
小宿もござりません。そとは此のゑで川がとまる

まゝが七味あれどもむづの^いぢき^やづ^ろ多くてあさり
かまうりあり七味ふみ味^ろが^ろて十二味^でなり

○山邊人

因^レ此^ニさんそをなせといふ何ぞいけうあるや
 こりやア長^た後^さのち^ちえとよ画^え所^{しよ}のち^ちあよ
 の回廊^{くわいろう}の系^{けい}古^この梅^{ばい}とつれおのち^ちの図^ずあり
 十^{じゆ}紀^ぎの中^{ちゆう}より古^こきそれ百人^{ひやくにん}首^{くび}人^{ひと}にざむもあは
 古^こきとハトよぶ拙^{せつ}き因^{いん}あま^{あま}あちるもなごのと
 注^{ちゅう}て山^{さん}車^{くるま}といふ因^{いん}志^しねるものよあとの人^{ひと}が
 おも因^{いん}あ人とはいふよなごのう
 何^{なん}ぢうのう

あまのつちふとろとんぞう
田舎が赤いのう

源
 何カ
 垢あ
 ぢぢ
 け
 全

○ 好

[illegible]



やゝおれ人の教へおしめしめくも入りしけのよき
ぬすむふふとてかたよとてふね。圖ハテおれい
おれいおれいおれいおれいおれいおれいおれい

○仙居抄

一文つせがやうせ中ふ仙居抄がふとね。
仙居抄又ふとてふとてふとてふとてふとて
文の用はぬ。抄やうててててててててて
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

御所がふとてふとてふとてふとてふとて



著述 南軍のふとてふとてふとてふとて



画工 溪舟信縁画



文政十三庚寅閏三月發兌

心舟橋南久宝寺町

大坂書林

河内屋直助

